

B 131 明治期衣服の研究 —オセ報— 近江・小林家 (3)

昭和女大家政 村井不二子 後藤好子

昭和女短大 ○安蔵裕子

目的 昨年度(オ大報)に引きつづき、明治期における洋装導入の背景と、その特質について考察をすすめるため、基礎的研究としての実態調査を、滋賀県愛知郡小林家所蔵の洋装資料について行うものである。

方法 オセ報においては、モーニング、フロックコート、燕尾服をとりあげ、形態、素材、各部計測による構成パターンの検討、縫製技術、付属品等の特質について考察を試みた。

結果 イギリス製と思われるモーニング、燕尾服及びズボン、国産品のフロックコートから、紳士服及びテーラー仕立ての変遷、発達に関わるデータを得、その特質について考察でき、形態、縫製方法等の諸点から、おそらくは明治後半期の作品と推察された。